

1. 激動の青年期

群雄割拠する戦国時代もようやく終わろうとしていた永禄5年(1562)1月12日、尾張国愛知郡荒子(名古屋市)の前田利家に待望の長男が生まれました。後の加賀百万石の二代目・前田利長です。幼名は犬千代、後に孫四郎、初名は利勝と名乗りました。

織田信長に仕えた父と同じく武勇に優れ、数々の戦功を立てます。天正9年(1581)には、越前府中(武生市)に3万石余の城主となり、信長の五女と結婚。同11年(1583)の賤ヶ岳の戦いでは柴田勝家につきましたが、羽柴(豊臣)秀吉と和を結んで、加賀松任で4万石の城主となります。翌年、末森城の合戦では父利家とともに佐々成政を少数の兵力で敗り、その功績により越中三郡(砺波・射水・婦負)を賜り、守山城に入り、前田氏による越中支配の基礎を築きました。

2. 英断の壮年期

その後も利長は九州征伐、小田原攻めなど秀吉の部将として戦い慶長2年(1597)富山に移り、翌年、利家から家督を譲り受け、加賀前田家二代当主となり金沢城に入りました。利長37才の時です。

この後、秀吉・利家が相次いで亡くなると、利長は豊臣家の柱石として注目されますが、徳川家康の天下を悟り、母を江戸へ人質に出すなど、家康に完全に服従する姿勢を貫きました。

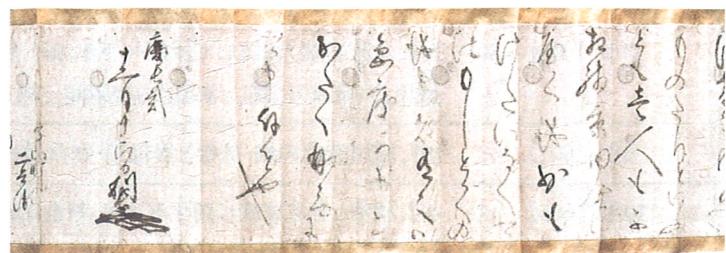
そして天下分け目の関ヶ原の戦いで徳川方として北陸方面で奮戦し、その功により能登と加賀二郡の40万石が加増され、ここに加越能三国120万石の大々名として地位を確立しました。



国宝・瑞龍寺(仏殿)



前田利長公画像(部分)
利長夫人ゆかりの長光寺蔵(高岡市石堤)



前田利長判物(部分、慶長2年・1597)
当館蔵

3. 百万石を死守した晩年

慶長6年(1601)、利長は徳川秀忠の二女珠姫と利常(異母弟)の結婚をとりまとめ、その翌年には徳川の重臣・本多正信の二男政重を国家老として迎えるなど徳川との結束を強め、前田家存続のため盤石の構えをとっています。

慶長10年(1605)、利長は44才で富山に隠居し、藩主を利常に譲り、その治世を後見します。同14年(1609)、富山大火により、新たに射水郡関野に築城(伝・高山右近設計)して「高岡」と名付け、町を開きました。

晩年はひたすら徳川に対して恭順の姿勢を示しつつ、同19年(1614)、高岡でその波瀾に満ちた生涯を閉じました。享年は53才。

利長は利常により造営された国宝・瑞龍寺に菩提を弔われ、高岡の地で安らかに眠っています。

前田利長の生涯

年 代	年齢	主 な 出 来 事
永禄 5年(1562)	0	1月12日、尾張国愛知郡荒子城(現名古屋市中川区)に前田利家の嫡男として誕生。 幼名犬千代、のちに孫四郎、初名は利勝。のち利長と改める。
天正 9年(1581)	20	12月、織田信長の五女永姫(のちに玉泉院)と結婚。 越前府中(現越前市)に封ぜられ、3万3千石を与えられる。
11年(1583)	22	4月、賤ヶ岳の戦い。松任に転封され4万石を与えられる。
12年(1584)	23	9月、能登末森城の合戦。少数の兵で佐々成政を敗る。
13年(1585)	24	8月、秀吉軍・越中の成政征伐。守山に転封され、成政旧領の越中三郡(砺波・射水・婦負)を拝領。 閏8月、勝興寺に制札。11月、従五位下に叙せられる。
15年(1587)	26	4月、秀吉の九州征伐に従い、豊前(大分県)巖石城を攻め戦功を立てる。
17年(1589)	28	利勝を利長と改名。
18年(1590)	29	秀吉の小田原征伐に従い、上野・武藏・相模など各地の諸城を陥れる。
文禄元年(1592)	31	正月、聚楽第行幸に陪席。春、文禄の役(朝鮮出兵)。利家、肥前(福岡県)名護屋に在陣。 利長は留守し軍需品の調達にあたる。金沢城を修築。
慶長 2年(1597)	36	10月、越中の本願寺の末寺・門徒に制札。新川郡富山城に移る。
3年(1598)	37	4月20日、利家退老して家督を譲り受け、加賀前田家二代当主となる。 従三位権中納言に叙せられる。8月、秀吉死去、秀頼の補佐役(傅役)になる。
4年(1599)	38	閏3月3日、利家死去。豊臣家五大老に列し、大坂で秀頼を補佐。
5年(1600)	39	5月、母芳春院人質として江戸へ下る。9月、関ヶ原の戦い。 徳川方(東軍)に属し、家康より加越能三国120万石を与えられる。
6年(1601)	40	9月、徳川秀忠の娘・珠姫と異母弟・利常結婚。利常を跡継ぎと定める。
10年(1605)	44	4月、利常と共に家康に謁する。6月、利常に家督を譲り、新川郡22万石を養老領として富山城で隠居。 12月、越中の総檢地をする。
14年(1609)	48	3月、富山大火。魚津城に移る。5月、射水郡関野に高山右近の繩張り(設計)で築城、突貫工事開始。 木町を設置。9月13日、関野を高岡と改め、未完成の高岡城へ入城。高岡開町。
15年(1610)	49	3月、癌(悪性の腫物)を病む。
16年(1611)	50	砺波郡西部金屋(現高岡市戸出)の鋳物師7人が諸役免除の拝領地(現高岡市金屋町)に招聘される(翌年さらに3人を招聘)。 5月、遺言を作る。12月、10万石と家臣数十人を本藩へ返す。新川郡の亀谷銀山を開き、花降銀を鋳造。
18年(1613)	52	病、重くなる。徳川と豊臣対立。秀頼の誘いを断る。
19年(1614)	53	病ますます重くなり「我死なば、すなわち天下自ら統一して太平ならん」と言い残し、5月20日、高岡城において死去。 高岡の法円寺(後の瑞龍寺)に葬り繁久寺を再興して守らせる。法名は「瑞龍院殿聖山英賢大居士」。 正二位権大納言を贈られる。
元和元年(1615)		豊臣氏滅亡。一国一城の令により、高岡城廃城。家臣団金沢へ引き上げる。
6年(1620)		利常、高岡町人に転出禁止令を出す。
正保 3年(1646)		利常、利長33回忌にあたり高岡に墓域1万坪に及ぶ「前田利長墓所」(国史跡)を造営する。
寛文 3年(1663)		利長50回忌にあたり正保2年(1645)より建築中の瑞龍寺が竣工する。